焼米溜池
（やきごめためいけ）

ため池から農地を望む

ため池湖畔から

ため池の概要

□ため池の所在地
佐賀県武雄市

□ため池の特徴
焼米溜池は、佐賀藩主鍋島治茂が、産業振興のため、特に干拓事業に力を注ぎ、それに伴う用水確保のため、19世紀はじめ頃造ったため池です。

焼米溜池の築造は、藩内に適地がなく他領地に設置するという藩政時代では異例の内容であることに加え、河川を横断するという江戸期としては非常に困難なものであったことから、多大な労力を費やしたことが伺われます。

現在は農地約900haを潤しており、白石平野は、米・麦を中心に全国でも北海道、兵庫県に次ぐ生産量を誇り、佐賀県の中核をなす農業地帯となっています。
白石たまねぎやレンコン、施設園芸としてイチゴ、アスパラも盛んに栽培されており、溜池は、地域農業には欠かせない存在となっています。

関連情報

池ノ内湖
（いけのうちこ）

上空から見たため池

ため池と近接する体験・学習施設

高校生等による魚類相変化の調査

ため池の概要

□ため池の所在地
佐賀県武雄市

□ため池の特徴
池ノ内湖は、武雄地域で最大の貯水量を持つため池で、一級河川六角川の沖積平野の肥沃な農地156haを潤しており、米・麦・大豆に加え、近年増えている施設園芸作物などの地域の農業に欠かせない存在となっています。

この地域では、地元農業者を中心に湖畔の各施設、地元高校、保育園、水環境団体や行政が参加して総合的水管理が行われています。
特に、武雄高校科学部による生物多様性保全を目標とした魚類相変化の調査や特定外来生物の排除活動は、全国的に高い評価を得ています。

元々、池ノ内湖は、寛永2年（1625）に武雄領内の耕地（3町1反）のかんがい用水として築造された小池であり、また武雄領主の御猟場でもありました。
その後、文化5年（1808）に周囲の新田開発に伴って堤のかさ上げが行われ、また、戦後も食糧増産や干ばつによる用水不足解消のために数度の嵩上げや改修が繰り返され、現在の姿になっています。

関連情報

武雄高校　http://www3.saga-ed.jp/school/edq10016/

山谷大堤
（やまたにおおつつみ）

棚田から望むため池

ため池から望む棚田

ため池の概要

□ため池の所在地
佐賀県西松浦郡有田町

□ため池の特徴
山谷大堤は、有田町北部の棚田百選「丘の棚田」の下流に位置し、棚田の景観と一体になり農村の原風景を醸し出しています。

1684年に山谷村民の汗と努力の結晶として完成したため池で、碑文に「半蓑雨」とあるように、何百年の歳月を経た今日でも変わらぬ恵みを水田45haにもたらしています。
この地区には、渇水時の雨乞い祈願の神事として発生した山谷浮立（起源：江戸時代1650年頃）が継承されており、現在では毎年の夏と秋祭りに集落の持ち回りで氏神様に奉納しています。

また、池は豪雨時の防災的役割や火災時の防火用水としての機能も担っています。地元では、五穀豊穣を感謝する「お日待」（毎年11月14日夜から15日朝まで）祭りが当番農家で催され、集落共同体としての意識が強く残っているため池です。

関連情報
棚田百選　http://www.acres.or.jp/Acres20030602/tanada/index.htm